

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01928

研究課題名（和文）ファミリー企業のコーポレート・ガバナンスが事業承継に与える影響の考察

研究課題名（英文）A study of the influence of governance of family business on corporate succession

研究代表者

中井 透（NAKAI, Toru）

京都産業大学・経営学部・教授

研究者番号：50237202

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は事業承継を考察対象とし、その前後におけるコーポレート・ガバナンスの実態を分析することで、所有と経営が一致するファミリー企業におけるガバナンスとそれが事業承継に与える影響を明らかにした。その上で、事業が継続するために必要不可欠とされるイノベーションに焦点を当てて、ファミリー企業における事業承継でのイノベーションの必要性について考察を行っている。

中国・武漢で発生した新型コロナウイルスの影響でトータルで5年となった研究期間全体での研究成果は、論文6本（査読論文なし）、全国大会での学会報告1回、共著書の改訂版出版1回となっている。当初予定していた目的は概ね達成できたと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、ファミリー企業におけるコーポレート・ガバナンスに焦点を当てたことが挙げられる。

近年コーポレート・ガバナンスについては組織論、財務論などの分野で多くの研究が行われているが、特にファミリー企業では所有と経営が一致する場合が大半を占めることから、大企業、上場企業とは異なるガバナンスの議論が求められるところである。事業が次世代へスムーズに承継されず廃業に至る事例が散見される中で、承継される企業のガバナンスの実態を考察対象に加えることで事業承継研究の幅を広げたことは学術的にも社会的にも意義深いものである。

研究成果の概要（英文）： This research focuses on business succession. By examining the actual state of corporate governance before and after business succession, we clarified the impact of corporate governance on business succession in family companies where ownership and management are aligned. Also, we focus on corporate innovations that are essential for business continuity.

The research period was extended to five years due to the new virus that originated in Wuhan, China. Research results during this period include six papers, one conference presentation at a national conference, and one revised edition of a co-authored book. We believe that we have largely achieved the objectives that we had originally planned.

研究分野：経営学

キーワード：ファミリー企業 コーポレートガバナンス 事業承継 中小企業 イノベーション

1. 研究開始当初の背景

本研究は、廃業することなく経営の移転を図る事業承継を考察対象とし、その前後におけるコーポレート・ガバナンスの実態を分析することで、所有と経営が一致するファミリー企業におけるガバナンスとそれが事業承継に与える影響を明らかにしようとするものであるが、この研究テーマを設定するに至った学術的背景は以下の通りである。

一つは、「一橋ビジネスレビュー」誌が2015年秋号で「ファミリービジネス その強さとリスク」として特集を組んだことから明らかな通り、長期的視点に立って継続性を目的とする経営スタイルに回帰しようとする動きの中で、ファミリービジネスが研究対象として注目を浴びている。二つ目は、中小企業が経営不振や後継者難に直面する中で継続性を維持するために効果的に事業承継を行うことが求められている。しかしながら、世代交代時に事業の継続がうまくいかず廃業に追い込まれる事例が散見されるようになってきた。事業を継続して次世代に承継させるためには、所有と経営が一致するファミリー企業においてどのようなガバナンスが行われるべきなのかを検討することは急務であり、重要な研究課題の一つとなりつつある。

近年コーポレート・ガバナンスについては組織論、財務論などの分野で多くの研究が行われているが、特にファミリー企業では所有と経営が一致する場合が大半を占めることから、大企業、上場企業とは異なるガバナンスの議論が求められるところである。事業が次世代へスムーズに承継されず廃業に至る事例が散見される中で、事業承継される企業のガバナンスの実態を考察対象に加えることで事業承継研究の幅を広げることの独自性を見出すものである。

2. 研究の目的

本研究は、ファミリー企業における事業承継の成功要因を、コーポレート・ガバナンスの実態を通して明らかにしようとするものである。

コーポレート・ガバナンス論では、上場企業は中長期的な企業価値向上に資するために株主との対話を行うべきであるとされる。しかし、中小企業の主要な株主はオーナー経営者であり、そもそもファミリー企業は本当に企業価値を高めたいのかとの「問い」が生まれる。

企業価値評価が、節税や相続目的で行われる場合と売却(M & A)目的で行われる場合で企業価値を高めたいかどうか異なるからである。本研究では、事業承継がスムーズに行われる要因を考察するわけだが、その場合のインセンティブは「企業価値向上」とは逆のものであり、その観点からは上場企業が志向するコーポレート・ガバナンスとは異なるガバナンスのあり方が求められるはずである。

そう考えると、一口にファミリー企業といっても、いわゆる「ファミリーの度合い」が問題になる。具体的には、度合いの程度が企業価値評価に影響を与えるとの考えに立ち、度合いの程度を「所有」の側面と、「経営」の側面から定義づける。前者が持株比率などであり、後者は前任経営者との関係などである。これによって、どんな「ファミリーの度合い」がガバナンスのあり方と関係するのかを明らかにすることを目的としている。リサーチクエスチョンをまとめると、以下の通りとなる。

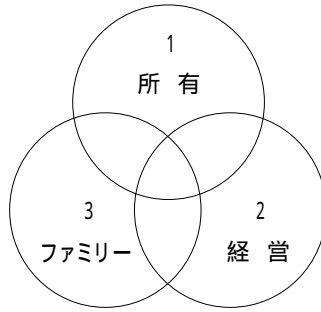
- ☞ファミリーの度合いによってコーポレート・ガバナンスにどのような違いがあるか
- ☞ファミリー企業がスムーズに事業承継を行うための望ましいガバナンスのあり方とは

これら2つの目的遂行を通じて、最終的には、どのようなファミリー企業のガバナンスがスムーズな事業承継のための成功要因となりうるのかについての、望ましいコーポレート・ガバナンスおよび事業承継のモデルを構築することをもって最終的な到達点とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究の位置づけ

欧米におけるファミリービジネス研究の理論的支柱であり、実証分析のフレームワークとなっているのがスリーサークル・モデルである(Tagiuri & Davis (1996))。研究代表者はこれまでに、図の「1. 所有」と「2. 経営」について、事業承継を円滑に行わせるための要因を分析してきた。一方で欧米の研究では、2つの輪の重なり具合に注目して企業業績への影響を分析する研究も散見される。ここで言う「2つの輪の重なり具合」がファミリー企業の「ファミリーの度合い」であり、企業統治の実態、すなわちコーポレート・ガバナンスである。こうした経緯から、2つの輪がほとんど重なっている日本の中小企業に焦点を当ててコーポレート・ガバナンスの違いが事業承継に与える影響や成功要因を究明することが不可欠との認識に至った。



(2) 研究の方法

本研究は、これまで研究代表者が行ってきた事業承継研究、企業価値評価の研究の中から得られた知見をもとに、コーポレート・ガバナンスの観点からの考察を加えて発展的に拡張することで、中小企業の経営の移転問題にファミリーの度合いという評価軸を取り込み、ファミリー企業の事業承継の分析を行うものである。なお、3年を研究期間とする具体的な研究内容は以下のよう

1) 研究対象

中小規模のファミリー企業

経営の移転の選択肢の一つとして、売却ではなく、事業承継を選択した企業

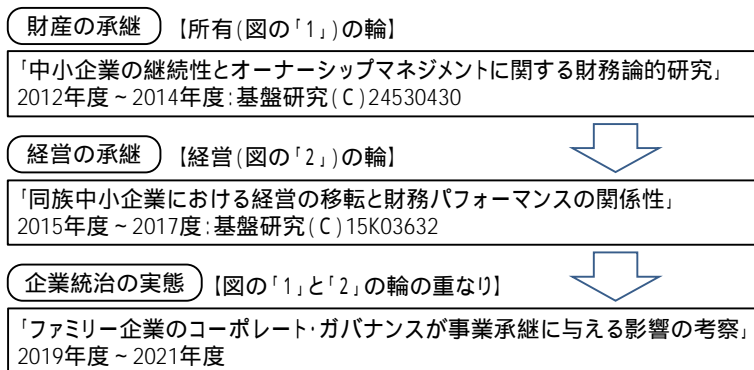
2) 研究方法

コーポレート・ガバナンスの実態、事業の継続性に対する考え方や継続・発展の根拠となる企業価値に対する考え方、企業に対する想い等を知ると同時に、モデル構築のために必要なインタビュー調査を実施する。

「ファミリーの度合い」を定義づけるために、定性・定量両面から評価基準を抽出して精査し、事業承継との関連性を探る。加えて、必要に応じてアンケート調査を実施する。

(3) これまでの研究活動と本研究の関係性

研究代表者はこれまでに、「中小企業の継続性とオーナーシップマネジメントに関する財務論的研究」(基盤研究(C):2012年度~2014年度)、「同族中小企業における経営の移転と財務パフォーマンスの関係性」(基盤研究(C):2015年度~2017年度、期間延長で最終年度は2018年度)で、上述したスリーサークル・モデルにおける「1:所有」の輪と「2:経営」の輪、およびそれらが交わる領域を対象として、財務論の視点から考察・分析を行ってきた。その上で、今回の研究対象である「2つの輪の重なり具合」(ファミリーの度合い)によって規定される企業統治の実態を、コーポレート・ガバナンス論の観点から考察し、「1:所有」の輪と「2:経営」の輪が一致しているファミリー企業の特異性を踏まえた上で事業承継の成功要因の分析を行うものである。それによって、スリーサークル・モデルを使ったファミリー企業の事業承継研究の多くをカバーすることとなるので、本研究は研究代表者の一連の研究の集大成に資するような位置づけとなっている。



4. 研究成果

本研究は、これまで研究代表者が行ってきたパイロットスタディをベースにしつつ、新たな知見を得るべくインタビューを実施し、そこから得られた定性・定量両面からの評価基準を抽出して精査し、必要に応じてアンケート調査しようとするものであった。しかし、本研究の初年度である2019年暮れに中国・武漢で発生した新型コロナウイルスの影響でインタビュー調査が困難となり、2回(2年)の期間延長を経て最終的には必要最小限のインタビューをオンライン等で実施して

研究期間を終了したものの、アンケート調査を実施するまでには至らなかった。

一方で、研究期間中に個人、法人の方々からお声掛けをいただき、成果を公表する場を得たことで、当初の目的を概ね達成することができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中井 透	4. 巻 1
2. 論文標題 事業活動の持続可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 SDGsの経営学（小松章・上林憲雄編著）	6. 最初と最後の頁 117-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中井 透	4. 巻 53
2. 論文標題 同族中小企業のコーポレートガバナンスと事業承継 - 清酒製造業の事例 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本政策金融公庫論集	6. 最初と最後の頁 77-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中井 透	4. 巻 66(4)
2. 論文標題 中小企業の事業承継とイノベーション	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福岡大学商学論叢	6. 最初と最後の頁 733-751
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中井 透	4. 巻 2
2. 論文標題 後継者難と事業承継マネジメント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中小企業経営入門（第2版）（中央経済社）	6. 最初と最後の頁 162-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井 透	4. 巻 2
2. 論文標題 資金難と財務マネジメント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中小企業経営入門（第2版）（中央経済社）	6. 最初と最後の頁 204-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井 透	4. 巻 34
2. 論文標題 Innovation for Sustainable Business Succession	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報財務管理研究	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中井 透
2. 発表標題 サステナビリティにおけるイノベーションとガバナンス
3. 学会等名 日本財務管理学会第54回春季全国大会@中央大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中井 透
2. 発表標題 中小企業経営における価値創造活動
3. 学会等名 日本財務管理学会第55回秋季全国大会@近畿大学
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中井透・識澤吉彦・石光裕	4. 発行年 2024年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 180
3. 書名 はじめて学ぶ会計・ファイナンス（第2版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------